





## 第5回日本プライマリ・ケア連合学会 秋季生涯教育セミナーの印象記

愛知県 村田 洋 二

石橋幸滋代表から日本プライマリ・ケア連合学会となって初めての生涯教育セミナーに「実地医家のための会」からも企画して欲しいとの話があった。今回は、「WS：14 みんなで語ろう！ たのしく開業を続けるために」というタイトルで、永井友二郎先生、田所直子先生に講師をお願いし、当日の司会と企画をお引き受けする事になった。WSの紹介文は、下記の如くである。

【現在の開業医を取り巻く環境は、混沌とし、多くの悩みを抱えながら診療をされている先生方が多いのではないのでしょうか？ 実地医家のための会」会員である私達は、皆さんと「開業を楽しく充実し、続けていくためにはどうしたら良いか？」を一緒に考えていきたいと思っています。今回の講師の先生方は、女性医師を含むベテラン開業医ですので、女性の先生方も、普段、一人でいろいろ悩んでいる事や、どんなささいな事でも、気軽に話しにきませんか？】

永井友二郎先生のご講演は、「実地医家のための会」会員による心筋梗塞、脳血管障害、そして、医療事故の共同調査を紹介され、「開業医の医療現場には、掘ればかならず出てくる有益な資源が多く眠っている。生き甲斐の

むらた ようじ

愛知県東海市・村田メディカルクリニック



左から村田洋二先生、永井友二郎先生、田所直子先生

ある聖職である。」と結ばれた。

田所直子先生のご講演は、女性医師の視点から、女性医師の現状、比率、特殊性そして、ワーク・ライフバランスについて述べられた。「あなたの悩みはなんですか？ 何にまずチャレンジしてみますか？ 待っていないでいいのです。生きているうちにおやりなさい。」の発言は、私たち男性医師にとっても、強くこころに残るお言葉であった。

講演後、永井先生、田所先生を囲んで、参加者全員による討論形式で行われた。

参加者は、12名。「実地医家のための会」からは、今本千衣子先生、高藤早苗先生、水野融先生、外山学先生にもご参加いただいた。アット・ホームな雰囲気の中、日常診療の困

難さについて、本音の意見が多く出た。在宅に関しては、診療時間、特に夜間診療の問題、患者さんの急変時の受け入れ先がない等、最終的には、チーム医療の大切さが結論づけられた。参加者の先生方の中には、内科以外に、産婦人科、整形外科、精神科などの先生方が一般医として開業されたケースもあり、やはり、他科との連携の難しさを訴える先生もいらした。しかしながら、整形外科出身の先生で、在宅の面からも、積極的に内科の勉強会に参加し、特にCOPD等の呼吸器疾患を学んでいるという、力強いご意見もあった。

また、開業5年以降の中堅開業医を対象としたため、そろそろ、いろいろと立ち止まって考える時期でもあり、毎日の診療の中で、自分の時間がない、このままのペースで続けられるのだろうか？ 等の不安も聞かれた。私達医師自身のQOLの問題にも触れ、家族



セミナーの様子

の支え、友人の大切さ、ジムやスキー等で気分転換を図っている等の意見が出た。

最後に、永井先生から「このようなワークショップに参加し、若い諸君と一緒に発言する事が、何よりも元気の源」との発言に、参加者全員からの拍手で、無事ワークショップを終えることができた。